

19. フィンスイミング日本選手権出場者の潜水に関する障害

山見信夫*¹⁾ 眞野喜洋*¹⁾ 芝山正治*²⁾
高橋正好*³⁾ 水野哲也*⁴⁾ 中山晴美*¹⁾
中山 徹*¹⁾ 平林和也*¹⁾ 富田絵津子*¹⁾
梶原龍人*¹⁾

*¹⁾東京医科歯科大学医学部保健衛生学科
*²⁾駒沢女子大学
*³⁾資源環境技術総合研究所
*⁴⁾東京医科歯科大学教養部

【目的】 フィンスイミング競技には水中で呼吸器具を使用する種目（イメージョン）や息こらえ潜水で速さを競う種目（アブニア）などがある。これまでフィンスイミング選手が罹患している疾病についての報告は非常に少ない。今回、日本選手権大会に出場した選手に問診を行い、フィンスイマーの障害について調査した。

【方法】 第8回フィンスイミング日本選手権（世界選手権派遣選手選考会）に参加した204名全員に問診を行った。

【結果】 問診の回答率は100%であった。男性が118名（24.7±SD9.2歳）、女性が86名（21.2±SD8.6歳）。経験年数は男性が23.9±SD32.5ヵ月、女性が15.6±SD20.8ヵ月であった。これまでの経験スポーツは男性では水泳、サッカー、野球、スクーバダイビングが多く、女性では水泳、バレーボール、スキーが多かった。潜水障害に関連する既往疾患で多いのは中耳炎が14名（6.9%）（男性6名、女性8名）、気管支喘息が6名（2.9%）（男性3名、女性3名）であった。現病歴では気管支喘息が3名みられた。

【考察】 気管支喘息の体質改善のために水泳を始めたスイマーがフィンスイミング競技に参加している。気管支喘息に罹患している者が潜水を行う場合、活動内容が制約されるが、現時点ではフィンスイミングの参加には健康診断によるチェックがほとんどなされていない。アブニア競技のトレーニング方法や呼吸器具の使用方法についても十分な注意が必要と考える。

20. レジャーダイバーの高気圧障害に関する実態調査 その1 —ダイビングコンピューター—

芝山正治*¹⁾ 山見信夫*²⁾ 内山めぐみ*²⁾
東美奈子*²⁾ 中山 徹*²⁾ 中山晴美*²⁾
高橋正好*³⁾ 水野哲也*⁴⁾ 眞野喜洋*²⁾

*¹⁾駒沢女子大学
*²⁾東京医科歯科大学医学部保健衛生学科
*³⁾資源環境技術総合研究所
*⁴⁾東京医科歯科大学教養部

レジャーダイバーが潜水活動を行うことによって減圧症などの高気圧障害に罹患するが、減圧症を予防するためにダイビングコンピューターが近年積極的に使用されている。これは水深と時間から体内溶解ガス量を自動的に積算し、残り無減圧潜水時間などをダイバーに知らせるものである。ところが、ダイビングコンピューターを使用したダイバーの減圧症発症が認められ、使用状況を調査する必要性がでてきた。そこで一日の潜水回数やダイビングコンピューターの使用状況などを調査するため、潜水スポットに出向き、聞き取り調査とアンケート調査を行ったので、その結果を報告する。

【調査場所及び方法】 調査が行われた潜水スポットは、静岡県伊豆半島の大瀬崎である。調査方法は、聞き取り調査とダイビングサービスに依頼してのアンケート調査とした。

【結果と考察】 調査件数は合計322件であり、ダイビングコンピューターの使用状況は、3分の1のダイバーが携行し、普及割合が予想以上に高いことが知れた。一日の潜水本数は、平均で2本であったが、最高で5本潜水したダイバーもいた。ダイビングコンピューターを携行しているダイバーは、全て無減圧潜水をし、ダイビングコンピューターへの信頼感が高かった。しかし機械であるダイビングコンピューターの安全率をより一層考慮した使用が必要である。